

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成19年9月13日(2007.9.13)

【公表番号】特表2007-514629(P2007-514629A)

【公表日】平成19年6月7日(2007.6.7)

【年通号数】公開・登録公報2007-021

【出願番号】特願2006-521392(P2006-521392)

【国際特許分類】

C 0 4 B 35/65 (2006.01)  
B 2 8 B 1/00 (2006.01)

【F I】

C 0 4 B 35/65  
B 2 8 B 1/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成19年7月30日(2007.7.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

金属酸化物粉末と金属粉末とをコロイド状ゾル中で攪拌混合してスリップを形成し、次いで該スリップを、冷凍ゲル化によって型内で固化して未焼成体を形成し、最終的に該未焼成体を、前記金属粉末を酸化させることができ活性雰囲気中で焼成する、

ことを特徴とするセラミック材料から成形体を製造する方法。

【請求項2】

前記未焼成体を酸素雰囲気中で焼成することを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項3】

前記スリップに、補強材を添加することを特徴とする請求項1または2記載の方法。

【請求項4】

前記スリップに、伝導性材料を添加することを特徴とする請求項1から3のいずれか1項記載の方法。

【請求項5】

前記スリップに炭素および/または炭素繊維を添加することを特徴とする請求項1から4のいずれか1項記載の方法。

【請求項6】

後の成形体の表面特性を決定する物質を前記未焼成体に浸透させることを特徴とする請求項1から5のいずれか1項記載の方法。

【請求項7】

後の成形体の表面特性を決定する物質を前記成形体に浸透させ、次いで該成形体を再焼成することを特徴とする請求項1から5のいずれか1項記載の方法。

【請求項8】

請求項1から7のいずれか1項記載の方法によって得られるセラミック成形体。

【請求項9】

請求項8に記載されたセラミック成形体を、航空宇宙エンジニアリング、マイクロシステムエンジニアリング、耐火物エンジニアリングおよび/または鋳型、および/または熱

交換器としておよび／またはバイオ技術のために使用する方法。

【請求項 10】

請求項8に記載されたセラミック成形体と保持体とからなる複合部品であって、前記成形体のために大量の金属粉末が前記スリップに添加され、該金属粉末が焼成時の体積変化を誘導し、前記成形体の前記保持体への圧入を誘導することを特徴とする複合部品。